

## 丸岡城跡 - 紹介解説文(パンフレット)

鶴岡の丸岡城周辺は、奈良の大和政権により現在の福井県から約400世帯が移転した716年に初めて開発されました。この動きは、商業的および軍事的成長を遂げた出羽国(現在の山形県)を支援することを目的としていました。このエリアは、丸岡越前からの新しい住民によって名付けられました。

丸岡城は鎌倉時代(1185~1333)に建てられたと考えられています。

この地域を統治していた武藤家の分城として始まりました。

戦国時代(1467~1568)、城は何度かその持ち主を変えました。また、沿岸の庄内地方から出羽国内陸部への唯一の直行ルートを守る上で重要な役割を果たしました。このコースは、塩を運ぶ商人や、出羽三山に向かう巡礼者によって使用されました。

1600年、関ヶ原の戦いは何世紀にもわたる内戦を終結させました。徳川家康(1543-1616)は決定的な勝利を主張し、国の支配権を獲得することを可能にしました。

平坦な土地に新しい城が建てられ、商人、武士、職人が周囲の町に住むことで、商業と政治の中心地になりました。この間、丸岡城は最上家によって統治されていました。

1615年、徳川将軍は、各大名に城を1つだけ持つように命じる一国一城令を発行しました。その結果、丸岡城は廃城となりました。最上家の追放後、丸岡城は1622年に酒井家の所有となりました。

1632年、徳川家光(1604-1651)は加藤忠広(1601-1653)の領地である熊本を没収し、忠広を出羽に追放しました。忠広は1万石の領土である丸岡に移り、庄内地方の大名である酒井忠勝の管理下に置かれました。

忠広の父である清正(1562-1611)が有名な将軍であり、関ヶ原の戦いで家康の側に立っていたため、高位で尊敬されている大名家でした。

庄内藩は正式に庄内藩が支配権を握っていましたが、酒井家は忠広を憐れみ、丸岡城を改修し、出羽丸岡藩を大名として出羽丸岡藩を樹立しました。

忠広は城で快適でシンプルな生活を送りましたが、1653年に彼が亡くなると、それは放棄され、幕府の直接の支配に戻されました。

今日、城の内堀と土の土台は残っています。敷地内には、守護神社、元の噴水を再現したもの、かつての庭で使用されていた石があります。隣接する天澤寺には、忠広の父、加藤清正(1562~1611)の記念碑があります。

城内は山形県の史跡に指定され、現在は鶴岡市のコミュニティパークとなっています。